

社会科学学習指導案（歴史的分野）

学 級 3年3組（計39名）

場 所 木工室（本校舎1階）

授業者 教諭 黒木 俊輔

1 単 元 第二次世界大戦と人類の惨禍（大単元 二度の世界大戦と日本）

2 単元について

本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容C「近現代の日本と世界」の中項目(1)「近代の日本と世界」のAの(カ)「第二次世界大戦と人類への惨禍」を取り扱う。ここでは、経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことに気付かせることをねらいとしている。第一次世界大戦後、日本、世界の資本主義的経済システムが恐慌をきたし、ファシズム勢力が台頭、日本でも軍部が台頭して、恐慌の解決口を中国や東南アジア侵略に求めた。そしてその先には、ファシズム諸国と、それに対抗する諸国との二度目の世界大戦があった。人類は、近代という名のもとに、人間性、個の尊厳、人権、自由、平等、民主主義、平和などを追求し、思想を共有し、20世紀までの長い間、それを発達させてきたが、このような思想とは裏腹に、それまでの人類が経験したこともない世界大戦を二度までも引き起こした。それまでの戦争は、いわば局地戦であったが、この二度の戦争は、世界の人々を巻き込んだ総力戦であり、そのつど開発された新しい兵器の実験の場でもあったのである。重要なのは、21世紀、次の世代に向けて、大戦から学んだことを基に国際協調と国際平和を実現していくことである。

本学級の生徒は、全般的に社会科の授業に積極的に取り組むことができている。男女ともに多くの発言があり、活発な意見交換が日頃から見られる。グループ活動でも意欲的に話し合い活動を行うことができ、お互いに高め合いながら学習を行うことができている。しかし、本校の課題である知識の習得に苦手意識を持つ生徒が多く、個別の事実的な知識だけではなく相互に関連付けられた知識の獲得ができていない生徒が多い。

指導に当たっては、軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを、「経済の変化の日本への影響」、「戦争に向かう時期の社会の生活の変化」、「世界の動きと日本との関連」など、世界の動きと日本との関連に着目して、第二次世界大戦や太平洋戦争が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で考察できるようにする。単元の第1時に「太平洋戦争の反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。」という単元を通した学習課題を設定し、第2時以降、継続してその解決を目指す。その際、O L B（見通し・振り返り）シートを活用して、歴史上の出来事を矢印やことばでつなぐ作業を通して、歴史上の出来事に関連性を確認させる。また、学習課題の解決にうまく向かえていない時は、教師が「4 単元の『知識の構造図』にある概念を意識して適切な切り返し発問を行い、学習課題の解決に向かうように支援する。軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できるようにし、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付くことができるようにしていきたい。

3 単元の目標

- (1) 「太平洋戦争の反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。」という単元を通した学習課題を、複数の資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解することができる。

【知識及び技能】

- (2) 第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果について、資料を根拠に多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 戦争の原因、被害と加害の実態を自ら調べ、平和を希求する態度を身に付けようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の「知識の構造図」

概 念	日本は世界恐慌を背景とした国内経済の混乱により、政党政治は行き詰り軍部が台頭した。そして中国への侵攻や国際連盟の脱退、さらには東南アジアへの侵攻といった動きをとり、国際社会から孤立していく。その結果、太平洋戦争が起こり、日本国民だけではなく人類全体が大きな惨禍を被ることとなった。										
小 単 元	世界恐慌とブ ロック経済	欧米の情勢と ファシズム	昭和恐慌と政 党内閣の危機	満州事変と軍 部の台頭	日中戦争と戦 時体制	第二次世界大 戦の始まり	太平洋戦争の 開始	戦時下の人々	戦争の終結	複 合 的 視 点	
具 体 的 知 識	・アメリカで起こった恐慌をきっかけに世界的な不況の時代が始まる。恐慌への対策としてアメリカはニューディール、イギリス・フランスはブロック経済を行った。	・経済の混乱に対して、ドイツとイタリアではファシズムが起こり、ヒトラーやムッソリーニが権力を握った。	・第一次世界大戦後の日本経済は不況に悩まされ、金融恐慌や昭和恐慌が起こった。憲政の常道も行き詰まり、社会問題が発生。関東軍は中国へ進出した。	・関東軍は満州事変を起こし、満州国を建国。日本は反発し国際連盟を脱退した。青年将校が政治への不満を行動に移し、孤立を深めた日本は日独防共協定を結んだ。	・盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まった。日本は戦時体制を整え、国家総動員法を制定。政党は解散して大政翼賛会に合流した。	・ドイツは独ソ不可侵条約を結んだ上でポーランドに侵攻し第二次世界大戦が始まった。日本はドイツの優勢を見て日独伊三国同盟を結んだ。	・日中戦争が長期化した日本は、資源獲得のため「大東亜共栄圏」を唱え、南進を始めた。日米関係は悪化し、アメリカは日本を経済封鎖して、太平洋戦争が始まった。	・日本は学徒出陣や勤労動員、占領地で厳しい総員を行うなど、全ての国力を投入して戦った。また、空襲が激しくなると都市の小学生は集団で疎開した。	・イタリアやドイツが降伏。日本も後退を重ね、東京大空襲や沖縄戦、広島・長崎への原爆投下の被害を受けてポツダム宣言を受諾。第二次世界大戦は終わった。	・二度と戦争を起こさないために、国際協調と国際平和の実現に努めていくことが大切である。	
用 語	・世界恐慌 ・ニューディール ・ブロック経済	・ファシズム ・ムッソリーニ ・ヒトラー ・ナチス	・憲政の常道 ・昭和恐慌 ・蒋介石 ・浜口雄幸	・満州事変 ・満州国 ・日独防共協定 ・五・一五事件 ・二・二六事件 ・国際連盟脱退	・大政翼賛会 ・皇民化政策 ・戦時体制 ・国家総動員法 ・毛沢東 ・蒋介石 ・日中戦争	・独ソ不可侵条約 ・ユダヤ人 ・第二次世界大戦 ・日独伊三国同盟	・日ソ中立条約 ・大東亜共栄圏 ・ABC包囲陣 ・太平洋戦争 ・ミッドウェー海戦	・総力戦 ・学徒出陣 ・疎開 ・抵抗運動	・東京大空襲 ・沖縄戦 ・原子爆弾投下 ・ポツダム宣言 ・玉音放送		

単 元 を 通 し た 学 習 課 題

「太平洋戦争の反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。」

5 単元の指導計画（全10時間）

時	主題	学習目標	重点的に育成する資質・能力		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	世界恐慌とブロック経済 単元の学習内容への関心を高め、単元を通じた学習課題を設定する段階	世界恐慌の概要と、欧米諸国の対応について理解する。			○
	学習課題「太平洋戦争の反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。」				
2	欧米の情勢とファシズム	イタリアとドイツに台頭してきたファシズムの実態について理解する。	○		
3	昭和恐慌と政党内閣の危機	世界恐慌が日本に与えた影響について考察する。		○	
4	満州事変と軍部の台頭	満州事変以降、日本がファシズム諸国へ接近した理由について考察する。		○	
5	日中戦争と戦時体制	日本の中国侵略の実態とそれに対する中国民衆の動きを理解する。	○		
6	第二次世界大戦の始まり	戦争がヨーロッパで起こり、拡大していった経緯を理解する。			○
7	太平洋戦争の開始 太平洋戦争がどのようにして始まったのか考察する段階	戦争に対して、日本とアメリカの資源や国力の差について、具体的な資料をもとに、太平洋戦争が起こった原因を考察する。		○	
8	戦時下の人々	戦争の長期化とともに国民生活が破綻していく実態を理解する。	○		
9	戦争の終結 太平洋戦争がどのような結果をもたらしたのか考察する段階	イタリア・ドイツの降伏、沖縄戦、原子爆弾投下などの戦争終結までの概要を理解する。	○		
10	単元のまとめ（本時） 個別の知識を関連付け、単元を通じた学習課題を解決する段階	どうすれば、太平洋戦争は回避することができたのかをまとめる。	◎	○	○

6 単元の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。」という単元を通じた学習課題を、複数の資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果について、資料を根拠に多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	戦争の原因、被害と加害の実態を自ら調べ、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(2) 社会科単元ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現
A	第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果に関する知識を習得し、その結果、二度と戦争を起こさないためには国際協調と国際平和の実現に努めることが大切である、という概念的な知識を身に付けることができる。	第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果について、第一次世界大戦と比較して資料を根拠に多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。
B	第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果に関する知識を習得し、その結果、二度と戦争を起こさないための知識を身に付けている。(国際協調と国際平和のいずれかに触れていること)	第二次世界大戦や太平洋戦争の原因・経過・結果について、多面的・多角的に考察し、表現できる。
C	B未満	B未満

7 本時の実際 (10/10)

- 題材 第二次世界大戦と人類の惨禍
- 目標 単元を通して習得した知識と既習の知識を関連付け、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何かを理解することができる。【知識及び技能】
- 授業設計上の工夫

前単元である「第一次世界大戦と日本」の学習では、「第一次世界大戦を通しどのような変化が起こったのだろう」という単元を通した学習課題を設定し授業を行った。第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の動きを関連させ、大戦がその後の国際協調や民族自決、民主化の動きに発展していったことに気付くことができるように、知識の獲得と資料の読み取り等を行った。

単元のまとめにおいてO L Bシートを活用し、単元を通した学習課題に対する自分のまとめを記述させ、以下の基準のもと評価を行った。

A	【B基準に次のような記述が加えられていること】日本では大正デモクラシーと呼ばれる民主化の動きが進み、政党政治の発達や社会運動の活発化が見られた。(第一次世界大戦がその後の国際情勢及び我が国に大きな影響を及ぼしたについて記述している)
B	第一次世界大戦は世界を巻き込み、多大な被害を各国に与えた。その結果、各国は国際協調の動きを進め、国際連盟を設立する。また、民族自決の原則や民主化の動きも発生し、アジアやアフリカでは独立を求める運動が活発化した。(第一次世界大戦がその後の国際情勢に大きな影響を及ぼしたについて記述している)
C	B未満

その結果、20%の生徒が「A」、60%の生徒が「B」、20%の生徒が「C」であった。これを基準に照らすと、「ケース2」となる。

ケース2	多くの生徒がB基準以上であるが、AよりBが多い場合	授業のねらいを多くの生徒が概ね達成している状態と判断する。さらにBをAにする手立てを考え、次時の授業以降に実行する。
------	---------------------------	--

これに照らし、本単元ではO L Bシートに改良を加え、個別的な知識を関連付けることで概念的な知識を獲得しやすいような工夫を行い、本時の班活動にも活用する。また、戦争の経緯をまとめる活動を行うことで知識を整理し、単元を通した学習課題の解決に向かいやすくする。

(4) 展開

過程	時間 形態	主な学習活動（・予想される生徒の姿）	○ 指導上の留意点 ◎ 評価
導 入	一斉 6 分	1 既習の学習事項を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。 太平洋戦争での反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。	○ パワーポイントを使い、本単元で学習した基礎的・基本的事項を確認する。 ○ 単元を通した学習課題の解決に向かわせることを意識付ける。
展 開	個 5 分 班 24 分	3 O L B シートの矢印年表の中から、戦争につながった出来事は何かを考える。 4 個人で考えた内容を班で共有し、戦争につながったと考えた出来事を一つ選ぶ。 5 どうすれば戦争を回避することができたのかを、それぞれの班で考えた矢印年表内の出来事を基に話し合う。 ・国際連盟の勧告に従って、満州から撤兵していれば良かったのではないかな。 ・国際連盟を脱退せずに、国際社会と共存していれば良かったのではないかな。 ・日中戦争へと発展していなければ、アメリカやイギリスと対立していなかったのではないかな。 6 話し合った内容を発表し、意見交換を行う。	○ 単元を通した流れを確認させることで思考を整理し、知識の定着を図る。 授業改善の工夫 O L B シートの中で知識をつなげ、関連させることで、流れをつかみやすくする。 ○ 他者の意見と自分の意見を比較させることで多様な考えに触れ、戦争が起こったきっかけに迫らせる。 ○ 各グループで戦争につながる出来事を1つ設定し、太平洋戦争が起こった背景を既存の知識を関連させながらまとめさせる。また、生徒の意見に対し、切り返し質問を行うことで理解を深める。 授業改善の工夫 生徒同士の対話を通し、第二次世界大戦中の日本の動きを確認することで、学習課題への解決に迫らせる。その際に、O L B シートを活用し、知識の概念化を図る。 ○ 各班のまとめを、ロイロノートを活用し見やすくする。
終 末	個 15 分	7 本単元のまとめを行う。 日本は中国への侵攻や国際連盟の脱退、さらには東南アジアへの侵攻といった動きをとり、国際社会から孤立していく。その結果、太平洋戦争へと発展し、日本国民だけではなく人類全体が大きな犠牲を受けることとなった。二度と戦争を起こさないために、国際協調と国際平和の実現に努めていくことが必要である。 8 現在の世界の紛争や内戦の様子から、これから先の未来に向けて問題提起する。	◎ 単元を通して習得した知識と既習の知識を関連付け、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何かを理解している。 【知識・技能】 (O L B シート) ○ 今後の学習内容との関連に触れ、意欲をもたせる。

- (5) 本時の評価の基準
 本授業では、次回以降の授業改善に向けて以下の評価を行う。

A	(例) 日本は中国への侵攻や国際連盟の脱退、さらには東南アジアへの侵攻といった動きをとり、国際社会から孤立していく。その結果、太平洋戦争へと発展し、日本国民だけではなく人類全体が大きな犠牲を受けることとなった。二度と戦争を起こさないために、国際協調と国際平和の実現に努めていく必要がある。(国際協調と国際平和の二つの視点から記述している)
B	(例) 日本は中国への侵攻や国際連盟の脱退、さらには東南アジアへの侵攻といった動きをとり、太平洋戦争へと発展していった。二度と戦争を起こさないために、国際平和の実現に努めていく必要がある。(国際協調または国際平和のいずれかの視点のみで記述している)
C	B未満

(6) 板書計画

第二次世界大戦と人類の惨禍

太平洋戦争での反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。

【各班の考え】

	1930年	1935年	1940年	1945年
日本	金曜日の悲劇	五・一五事件	国際連盟脱退 二・二六事件	国家総動員法 大政翼賛会 太平洋戦争
アジア	満州国建国	満州国建国	日中戦争 皇民化政策	大東亜共栄圏 サイパン島陥落
世界	世界恐慌	ヒトラーが首相になる	第二次世界大戦 日独伊三国同盟	ミッドウェー海戦 ドイツ降伏

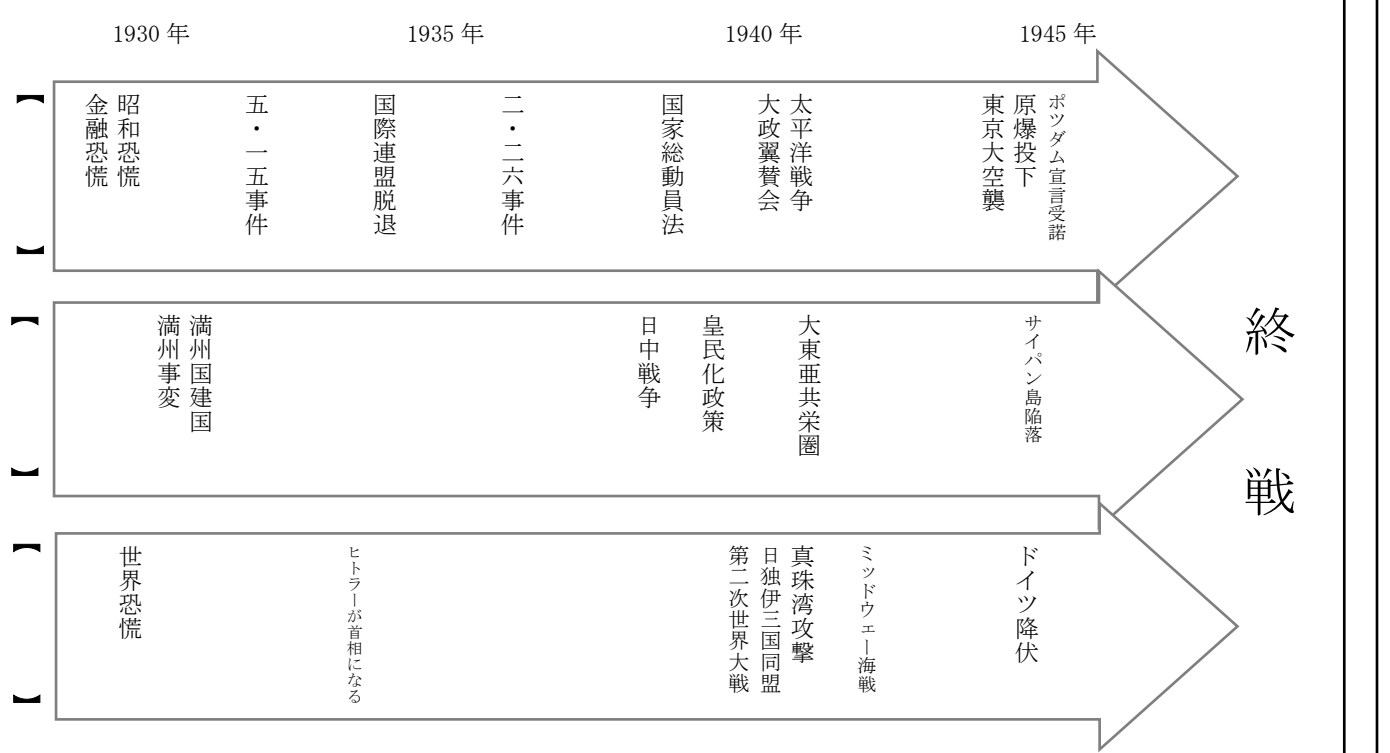
終戦

単元を通した学習課題

太平洋戦争での反省を踏まえ、二度と戦争を起こさないようにするために、必要なことは何だろう。

〈私の予想〉

◎出来事に関連付けよう。



◎説明を書こう。

番号	説 明	番号	説 明

考えの変化

〈太平洋戦争はどのようにして起こったのだろう〉

〈単元を通した私のまとめ〉